

2025

しがの生協

No.202

TOPICS
トピックス

第51回通常総会を開催 全議案を可決

第51回通常



2025年



(上)左から、議長：コープしが 森代議員、来賓挨拶：滋賀県三日月知事代理 県民活動生活課・佐藤課長、関西地連・村上事務局長、議案提案：森井専務理事
(下)左から、会場発言：共済生協・池村代議員、コープしが・河瀬代議員、滋賀大学生協・齊藤代議員、滋賀県立大学生協・西本代議員



第51回通常総会内容

- 第1号議案 2024年度活動報告及び決算、
剰余金処分案承認の件
 - 第2号議案 2025年度活動計画及び予算承認の件
 - 第3号議案 役員改選の件
 - 第4号議案 役員報酬決定の件
 - 特別決議 第51回通常総会アピール
- 第3号議案を除き、全て賛成多数で可決承認されました。
第3号議案の役員改選は定数内のため、全員無投票当選となりました。

【出席状況】出席代議員43名
本人出席25名、書面出席18名、委任出席0名

2025年度(第45期)役員名簿

*印は新任

役職名	氏名	出身生協
会長	白石 一夫	生活協同組合コープしが 理事長
副会長	森井 和則	滋賀県立大学生協 専務理事
専務理事	森井 徹	滋賀県生協連 専務理事
常務理事	池添 達也	滋賀県勤労者共済生協 専務理事
常務理事	横井 浩二	滋賀県勤労者住宅生協 常務理事
理事※	河瀬 文	生活協同組合コープしが 副理事長
理事※	森 奈緒子	生活協同組合コープしが 常任理事
理事	寺田 真	生活協同組合コープしが 常務理事
理事	陌間 秀幸	滋賀県職員生協 専務理事
理事	関野 博之生	滋賀大学生協 専務理事
理事	福塚 友見	しが健康医療生協 専務理事
理事	佐藤 由紀	滋賀医科大学生協 理事
理事	山下 崇輝	生活クラブ生協 専務理事
理事	日永 勇介	グリーンコープしがまる生協 理事
監事※	笠川 英明	生活協同組合コープしが 常勤監事
監事	金岡 英明	しが健康医療生協 理事



本総会を以て、左より濱田理事、熊沢理事、海老澤監事が退任しました。

滋賀医科大学生活協同組合

学内の食と学びを支える!

昨年秋に大学食堂ホールの改装が終了し、今年度、滋賀医科大学生活協では通年での食堂・購買の通常営業を予定しています。物価の高騰などを受け、学生の学びのツールや食生活も影響を受けていますが、ホールが新しくなったことから4月の開講以降、食堂を中心に店舗が入っている建物全体にも活気が戻ってきています。その一方で滋賀医大生協の2024年度は非常に厳しい決算でした。パートスタッフによる日常運営でも縮こまることはなく、供給活動の前進が必要な2025年度と考えています。

そのために、大学内の食と学びを支えることをあらためて活動の第一の柱に掲げ、経営の改善を進めていきます。例えば、食堂内にホットショーケースの設置、またセルフレジを活用した夜間無人営業への挑戦などを計画しています。特に購買の夜間営業は、滋賀医大の試験期の学生組合員の皆さんには一定のご要望があるものと考えています。

組合員がいる場所に一番近いキャンパス内の店舗として、組合員の勉学や研究を福利厚生者の視点から支えていきたいと思っています。



滋賀県立大学生生活協同組合

地産地消の取り組み

毎年、滋賀県立大学生協では授業の一環で、県内で作られたお米を使ったお酒「湖風」を販売しています。「湖風」は、学生団体の滋賀県立大学日本酒プロジェクトが2011年から地元企業「喜多酒造」と大学生協と共に、田植えから醸造、販売まで関わって作り上げた日本酒です。若者の日本酒離れを阻止するべく立ち上げられたこのプロジェクト、地産地消・地域共生の観点からも滋賀県立大学生協は賛同しショップでの販売、試飲販売会のお手伝いなどを行っています。

学生と地域が共に活動を推進する中、最終的に販売する手立てとして生協ショップを活用していただいております。地産地消・地域共生の一環として大学生協が参加できることは大変嬉しく、また大学生協の取り組みとしても学生団体や、課外活動に協力しています。滋賀県立大学独自のお酒ということもあり、大学の福利厚生施設を担う生協で販売しています。

毎日1000人を超す学生さんに利用いただいている食堂では、県内で生産されたお米を農家さんから直接仕



日本酒「湖風」



近江牛WEEKポスター

入れて提供しています。その他にも大学で作られたお米を期間限定で提供したり、近江牛バーガーや近江牛丼、近江牛ステーキ丼の提供など、地産地消を推進しています。地産地消の消費を担うショップ・カフェテリアにて食育、健康、安全、安心を意識して、今後も地域共生を盛り上げていきたいと思っています。

滋賀大学生生活協同組合

学生の生活を支えるために

2024年度から、滋賀大学大津地区生協と滋賀大学彦根地区生協が合併して「滋賀大学生生活協同組合」としてスタートしました。昨今の社会情勢もあって厳しい経営状況は続いています。大津キャンパスと彦根キャンパス、それぞれ離れた場所ではありますが、同じ滋賀大学の構成員であり、同じ滋賀大学生協の組合員さんです。場所・設備が違うから…といったことで提供するサービスに差が出ないように、組合員の声に寄り添った運営を心がけていきたいと考えています。

また、サービスなどのソフト面だけでなく、設備の老朽化といったハード面の課題、そして働き手の不足と、課題はたくさんありますが、学生にどのように、より良いサービスを提供できるか、を第一に考えながら精進していきたいと思えます。

2025年度の方針は以下の通りです。

- ①組合員の生協への関わりを強めるため、生協への興味関心を持ってもらえるように努めます。
- ②組合員の健康的で安全・安心な大学生活を支えます。
- ③組合員の学びやキャリアなど、将来に向かう成長を支えます。



2024年秋
大山牛乳の試飲会

- ④組合員に生協を利用してもらい、組合員に還元をする、利用と還元が循環できる経営構造の構築を目指します。

また、学内プロジェクトから誕生した滋賀大学オリジナルの日本酒『菘ぐくみ』（はぐくみ）の取り扱いも始まります。滋賀大学の学生が、地域の農家の方・北島酒造株式会社(湖南市)にご協力いただいて作られています。

グリーンコープしがまる生活協同組合

学びとつながりで、 持続可能な暮らしを未来へ

【楽しく学びながら仲間づくり】

昨年度は、石けんや産直びん牛乳、出汁の使い方をテーマにした学習会を開催しました。親子で参加できるイベントや、試食を交えた企画を通じて、メーカーや生産者の想いに触れ、商品を深く知る機会となりました。先輩組合員との交流からは、びん牛乳への思いや活動の魅力も伝わってきます。今年度もこうした取り組みを通じて、新しい仲間づくりを進めていきます。

【商品への理解を深める活動】

グリーンコープの商品の理解を深める取り組みを進めています。商品の特長やこだわりを学び、安全・安心な商品を選ぶ力を高め、それを地域の組合員と共有することで、組合員の健やかな暮らしに貢献できると考えています。今後も、得た学びを活かしながら、地域の組合員に届け、深めていきます。

【地域とつながるイベント参加】

オーガニックマーケットなど、地域のイベントに積極的に参加し、交流を通じて、グリーンコープの理念や取り組みを伝え、活動の輪を広げていきます。



2025年3月
びん牛乳工場(大分県) 操業開始

【地球にやさしい未来を目指して】

グリーンコープは「環境を守る運動の集大成」として、2027年カーボンニュートラルの実現に取り組んでいます。組合員一人ひとりの利用高の1%を活用して、環境保全の活動を力強く推進しています。

【生産者につながる「真の産直」】

産直びん牛乳事業は、生産者とグリーンコープが直接取引する仕組みを活用し、TMR(飼料)センター・酪農場・びん牛乳工場(写真)を立ち上げ、持続可能な畜産業と環境保護を両立させています。びん牛乳利用が未来の環境を守ることに繋がります。

生活協同組合コープしが

キーワードは、楽しい！

コープしがは、30周年を契機に理念「ともにつくる笑顔あふれる未来」の実現に向けて、新たな活動・行動コンセプトを「みんなごと」と決めました。物事を自分ごと・他人ごとと切り分けず、自分の経験や困りごととは相手にも共通しているものと考えて、課題はみんなで解決しようという想いをこめています。これに加え、2025年度は『楽しい』『コープしがっていいね』と印象に残る年にというテーマにしました。

今年度の特徴的な取り組みに「考えてやってみよう！5つのたいせつ活動」があります。コープしがの活動の中心となる「たべる」「びわこ」「いのち」「ちいき」「くらし」。この5つのたいせつは、自分でできることを考えて小さなアクションにチャレンジしてみよう！というものです。コロナ禍で、みんなで集まなくても、何かできるんじゃないかと「考えてやってみよう！びわ湖清掃ウォーク」として実施したように、5つのたいせつ全体に広がっていきます。また、滋賀県在住の料理研究家 嶋田あさ美さんとコラボし、「美味しい！楽しい！コラボレシピ」企画を行っています。「組合員にコープしがをもっと楽しいでもらいたい」という想いから、宅配やお店の商品を使ったオリジナルレシピを紹介しています。コー



5つのたいせつ活動
「たべる」「びわこ」
「いのち」「ちいき」
「くらし」



美味しい！楽しい！
コラボレシピ



料理研究家
嶋田あさ美さんと
コラボレシピ企画

プしが公式ホームページとInstagramには、毎週新たなレシピと鮮やかな料理写真を掲載しています。

コープしがが掲げる2030年ビジョン「やくだつ・つながる・ひろがる」を目指し、「楽しい」をキーワードに、この1年取り組んでいきます。

生活クラブ生活協同組合

地域に開く

守山市水保町、琵琶湖大橋取付道路沿いに新しくセンターを建設し、今年で3年が経ちます。

「地域に開く」ことを掲げ、センターで定期的に「生活クラブマルシェ」を開催しています。生産者、組合員らが様々なブースを出店し、回を追う毎に来場者も増えており、今後もさらに地域に開かれた場所にしていきます。速野小学校の社会見学や、医療生協の健康まつりに出店、守山市エコフェスタに出店、守山市環境事業の一環でコンポストづくり企画など、地域の方々との活動機会が増えてきました。

センターに注文した荷物を組合員が取りに来る「留め置き班」や、誰もが気軽に来れ、語り会える場所にと、100円で昼食を食べられるようにもしました。託児室も開放し、おあぜいの組合員や子どもたちが来てくれています。学校に行くのがしんどい子どもたちも来るようになり、居場所として広がっています。子育てワークスペース設立の伴走支援もしました。設立後も継続的に交流する機会を設けています。

3.11東日本大震災から14年が経ちますが、何も解決せず終わってもいけません。わたしたちは、2013年からリフレッシュツアーを開催し「3.11を忘れない、原発を



なくし、再生可能エネルギーが主体となる社会づくり」に取り組み続けます。

「共生と非戦の立場を貫く」ことも理念としています。パレスチナオリーブオイルの生産者と一緒に、戦争を止める活動やカンパ活動に取り組んでいます。

これからも、食べもの・エネルギー・たすけあい・福祉・環境が自給、循環する地域づくり、社会づくりに取り組んでいきます。

滋賀県勤労者共済生活協同組合

「新しいたすけあい」の創造・実践

2025年度は、「こくみん共済coop 中期経営政策 2022-25～変革と創造～」の最終年度として、これまでの3か年における取り組みを踏まえ、「新しいたすけあい」の創造・実践をさらにすすめていきます。

具体的には、協力団体・組合員・生活者のニーズに応え、より多くの「安心」と「満足」をお届けできるよう、貯蓄性商品を含めたトータルなお役立ち活動を展開します。また、協力団体・組合員との新たなコミュニケーションの確立や、時間と場所に捉われずお手続きができる「公式アプリ」「マイページ」、**“事前・事後” “もしも”**を全般的にサポートする「こくみんLifeサポート」などの展開を通じて、協力団体・組合員に新たな体験価値を提供し、こくみん共済coopファンづくりをすすめます。

また、滋賀推進本部(滋賀県勤労者共済生活協同組合)では、社会貢献活動として、頻発する自然災害から身を守る「防災・減災」の取り組み、子どもたちを事故から守っていく「7才の交通安全プロジェクト」、子どもたちのすこやかな成長を応援する「こどもの成長応援プロジェクト」などをさらに実行していきます。



こくみん共済coop
公式キャラクター
ビットくん(滋賀県)

引き続き、役職員が先頭に立って運動を推進し、将来にわたる組合員へのお役立ちと、理念である「みんなであすけあい 豊かで安心できる社会づくり」に向けた取り組みを創造・実践するとともに、コンプライアンスやガバナンスをさらに強化して業務品質のさらなる向上を目指します。

滋賀県勤労者住宅生活協同組合

住宅事業を基盤に自主福祉運動

滋賀県住宅生協は、「助け合い・支え合う」共助拡大の取り組みを地域の中に広げようと事業運営を行っています。誰もが経済的困窮や社会的孤立に陥ることなく、豊かに安心して暮らすことが出来る地域社会を目指して自主福祉運動を進める組織の中で、住宅関連の役割を担いながら様々な取り組みを進めています。

住宅市場は、2025年4月より全ての新設住宅に省エネ基準適合が義務化され、高断熱化とZEH水準とされる省エネ住宅の普及が進んでいます。人にも環境にも優しく防災上のメリットも多い省エネ住宅がこれからの標準となり、安全且つ回復力のある持続可能な住環境づくりが求められています。

このような中で、安全・安心な暮らしを支える街づくりと、より多くの勤労者に選ばれる分譲販売を基幹事業として進めてまいります。

2025年度の自主福祉活動については、リフォーム・リノベーションや空き家相談など、様々な住まいに関する困りごと、悩みごとを解決に導けるよう懇切丁寧に対応してまいります。また、滋賀県児童福祉入所施設協議会を通じた子どもたちへの支援や、食料支援を必要とする家庭や福祉施設へフードバンクを通じて食



児童養護施設(鹿深の家)



企業説明会

糧品提供の支援を継続して行い、食品ロスにも貢献してまいります。地域貢献活動については、地域の活性化を目的に、ツリーハウスの制作と地域開放に取り組む学生団体の活動を支援するとともに、建築・環境デザインなどを学ぶ学生達と滋賀県に拠点を置く地元企業との出会いの場を創出し、将来の就職に向けた橋渡しにも取り組んでまいります。

滋賀県職員生活協同組合

県との連携事業を積極的に進める

県職員生協は、県庁に勤務する職員を対象とした職域生協で、「くらしと健康を守り、生きがいを育む」ことを目的に、県庁内の売店と、県内合同庁舎等8か所の売店で、パン・お弁当、菓子・飲料を中心に売店事業、安全・安心な食事をしていただく食堂運営、名刺印刷・宅急便等の取り次ぎ、保険事業など、職場生活に密着した事業を展開し、皆さまから信頼され、親しまれる職員生協であり続けるよう努めているところです。

昨年度は、商品価格の上昇による買い控えなど、急速な物価の高騰が事業に大きく影響しました。組合員のライフスタイルや価値観の変化とともに、当組合に対するニーズもまた変化しており、事業をめぐる環境は厳しさを増しています。

今年度も引き続き「地産地消」「県産品の利用拡大」など、県との連携を積極的に進め、組合員だけでなく、県民からも必要とされる職員生協をめざします。2025年は4～10月の『大阪・関西万博』と、秋には『わたSHIGA輝く国スポ・障スポ』が開催されます。売店ではキャラクターグッズ等を販売し、盛り上げに貢献してまいります。また、県庁売店では、毎週木曜日、県立



「大阪・関西万博」、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」キャラクターグッズコーナー

農業大学の学生さんが実習で収穫された野菜を販売しています。定期的に近江の地酒の軒旋販売、年に数回の催事として「高島ちぢみ(綿)、近江の麻・近江ちぢみ(麻)、浜ちりめん(絹)の県内天然繊維三産地の地場産品」、「びわ湖パール」等の展示販売会を開催しています。厳しい経済情勢下での運営が続きますが、今後とも組合員の福利厚生をしっかりと支えてまいります。

しが健康医療生活協同組合

安心してつながれる地域をめざして

2025年度、私たちは「いのちとくらしを守る」ことを基本に、医療・介護・福祉の事業と地域での活動を一体的にすすめていきます。

昨年(2024年)、医療や介護のサービスに対する公的な仕組みが見直され、診療報酬や介護報酬の改定が行われました。必要なケアを提供するための費用が十分に確保されず、多くの現場では人手不足や運営の厳しさが増えています。安心して医療・介護を受けられる体制を地域で守ることが、これまで以上に大切になっています。

その中でも私たちは、地域の声を聴き、組合員や住民とともに「困りごと」に寄り添う取り組みを続けています。健康まつりや、まちかど健康チェック、認知症カフェ、組合員が気軽に参加できる「みんなきてやカフェ」などの居場所づくり、子ども食堂、フードドライブといった活動を通じて、誰もが安心してつながれる地域をめざしています。

また、こびらい生協診療所リニューアル計画の検討



も始まっています。これまで以上に安全・安心で利用しやすい医療の場を、地域とともにつくっていきます。

「健康をつくる」「平和をつくる」「いのち輝く社会をつくる」という理念を胸に、行政やさまざまな団体と連携しながら、誰ひとり取り残されないまちづくりに力を尽くしていきます。

5/24消費者ネットしが・滋賀県共催 2025年度消費者月間セミナー

2025年度消費者月間テーマ「グリーン志向消費 ～どのグリーンにする?～」にあわせて、映画「ザ・トゥルー・コスト」の上映と、淡海環境保全財団 来田博美氏による「地球温暖化とサステナブルファッション」の講演を65名の参加で開催しました。

映画では、トレンドの服が安く購入できるファストファッション、それを支える大量生産、大量消費の裏には、犠牲を強いられている多くの人がありました。経済的に貧

しい途上国で、低賃金による長時間労働や劣悪な労働環境、染色など化学物質による河川や地下水の汚染、周辺地域の水の枯渇などが起こっていた。

講演は、ファストファッションが与える環境影響のお話をいただきました。原材料を調達し、紡績や染色により生地を作り、縫製して衣服になります。ほとんどが海外からの輸入品。大量に作られ、安く売られる。ファッション産業は、環境に与える影響が非常に大



淡海環境保全財団 来田博美氏



きい産業だと指摘されました。

私たちはトレンドに合わせた服を、とても安い値段で購入しています。この安さが途上国の人権問題や自然環境破壊に関わっていることを学びました。モノづくりの背後に思いを寄せ、一人ひとりが今ある衣服を大切に、古着や衣服のリフォームも取り入れ、豊かな暮らしに取り組んでみましょう。

～平和行進への参加～ 滋賀県内各地を行進しました

6月16日～21日 梅雨の合間の猛暑の中、滋賀県内で平和行進が行われました。16日(月)関ヶ原町中央公民館にて、岐阜から滋賀へ平和行進引継集会が開催され、岐阜・滋賀両県の代表者や通し行進者の挨拶、横断幕の引継ぎ後、滋賀県内の行進がスタートしました。20日(金)には滋賀県生協連も行進に参加し、JR石山駅から大津市役所までの約10kmを元気良く行進しました。

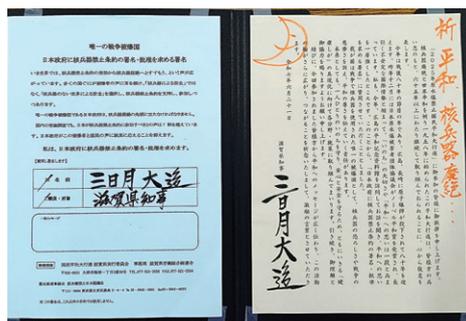
最終日の21日(土)大津駅前出発セレモニーでは、滋賀県より三日月県知事からメッセージと「核兵器禁止条約批准への署名」のサプライズがあり、私たちの平和運動の大きな成果です。滋賀県内の行進を無事終え、京都に引継ぎました。



岐阜県からの引継ぎ式



大津市役所前



三日月県知事の署名とメッセージ

滋賀県生協連からの お知らせ

「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を 求める署名」の活動に取り組んでいます。

被爆者の長年の願いであった、核兵器禁止条約が2021年1月22日に発効しましたが、日本は条約に署名も批准もしていません。「唯一の戦争被爆国」である日本政府に、核兵器の禁止から廃絶へ、世界をリードすることを求める署名です。

被爆者の想いを受け止め、ともに核兵器廃絶のための取り組みの一つとして、署名活動への協力をお願いします。集まった署名は、日本原水爆被害者団体協議会を通じて日本政府へ届けます。

署名取り組み期間: **2025年7月1日～10月31日**

核兵器禁止条約学習
YouTube動画
(10分30秒)



滋賀県生協連HP内で
電子署名ができます。
ご協力をお願いします。



戦争体験の語り手さんを 募集します

戦争のことを知らない世代へと語り継ぐため、戦後70年を契機に発足した取り組みです。

戦後80年の今年、聞き取りも10年目を迎え、体験者からお話を聞く機会も少なくなってきました。貴重な体験談をぜひお聞かせください。



聞き取りを
まとめた冊子

ご連絡お待ちしております。

E-mail siga-seikyoren@cooperative.jp

TEL 077-518-0072 **FAX** 077-518-0078

**核兵器禁止条約が
発効されました！**

2017年に国連総会で条約が決議され、発効まで4年の歳月を経ましたが、2021年1月、歴史上初めて核兵器そのものを禁止する画期的な国際的取決めとなりました。しかし、唯一の被爆国である日本はこの条約に批准していません。

核兵器廃絶を目指して
署名にご協力をお願いします。

署名・批准を求めます

Web 署名はこちらの
二次元コードから

滋賀県生活協同組合連合会

**間かせてください、
戦時中のおはなし**

戦後75年余、戦争のことを知らない世代へと移りつつあります。大切な人の命が奪われてしまう悲惨な戦争を二度と繰り返されないうちにも、戦時中の体験を聞かせていただき、次世代に「平和の大切さ」をつないでいくことが大切だと考えています。戦争体験、その記憶をぜひ聞かせてください。ご連絡をお待ちしています。

**語り手さんを
募集しています**

お話ししていただける方知ってるよ！でも結構です

- 戦争体験をお話し頂ける方
- 戦争体験をお話し頂ける方をご存知の方
- 戦争体験や日々のくらしの手記、資料を提供できる方

滋賀県での戦時中のくらし
学童疎開でのくらし
空襲体験
兵士・看護師として戦地に行かれた方
軍需工場などで働いていた方
など
そのような話を聞かされていた方や資料(手記・日記)でも結構です。

滋賀県生活協同組合連合会

